

第6回米百俵賞特別賞受賞
(平成14年6月15日表彰)

相馬 英夫 (新潟市)



私塾「耕心塾」を開設し、不登校等の児童・生徒を無償で受け入れ、自立のための指導を行った。

■受賞時プロフィール

戦後間もない昭和22年、新潟市立白山小学校に赴任した青年教師相馬氏は浮浪児を担任し、これを機に生徒の生活指導を研究し実践の道を歩み始めた。

教職の退職に先立つ昭和53年12月、私費を投じて豊栄市に1,200平方メートルの土地(畑)を取得し、当時着任していた新潟市立松浜中学校の特殊学級生にいも作りなどをさせながら、自然の中での子どもたちへの援助活動の効果を感じ、不登校等の児童・生徒のための塾運営の可能性を発見する。そして、退職までの間、着々と塾開設の準備を進め、昭和62年4月、正式に私塾「耕心塾」を開設した。

以来、県内各地より多くの不登校等の児童及び生徒(小学生～高校生)を無償で受け入れ、農作業等を通じた体験学習など、いわゆる作業療法(行動療法)を中心に、自立の道が歩けるようマン・ツウ・マンで指導に当たった。また、家庭訪問や学校訪問で家族療法や生活療法などを行うとともに、自宅においても夜などの空いた時間を活用し、来宅あるいは電話による相談に対しても指導を行った。

子どもたちの受入れが無償だけでなく、教材費、体験学習費、飲食費、交通費等一切の経費を相馬氏が負担している。「教育は金銭ではない。自分は絵描きなどと同様に子どもたちと接しな

がら感動を追い求めている。その感動は子どもたちから与えられ、金銭には代えられない」という相馬氏の姿勢の表れである。指導を受けた多くの子どもは再登校、進学、就職への進路を見出している。

■主な受賞歴

- 昭和 36 年 読売教育賞（生活指導部門）
- 平成 5 年 新潟日報文化賞（社会部門）